

市指定史跡

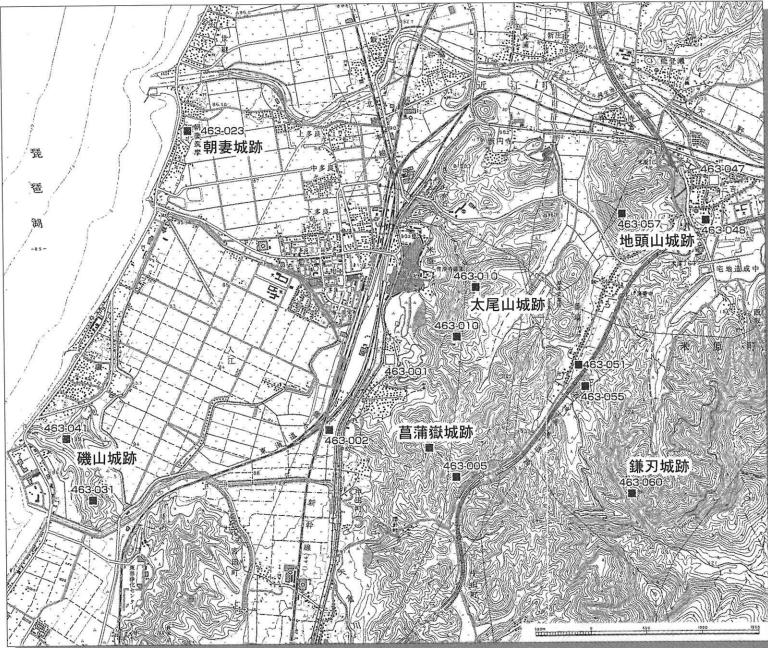
太尾山城跡

ふとおやまじょうあと
太尾山城跡は、JR米原駅の東にそびえる太尾山にあります。築城年代は不明ですが、在地土豪の
よねはらし
米原氏によって築かれたといわれています。

文明3年(1471)には美濃の守護代斎藤妙椿が近江に侵攻し、米原山で合戦したとの記録があり、
この山が太尾山ではないかと考えられています。天文7年(1538)の六角定頼による北近江攻めでは、
永田氏などが太尾に布陣しているのが記録されています。天文21年には、京極高広が六角方の太尾
山城の攻略を今井氏に命じていますが失敗。永禄4年(1561)になると浅井長政による太尾山城攻め
が開始され、攻撃に加わった今井定清が夜襲で誤って味方の槍を受け討ち死にしますが、ようやく
攻略して中嶋宗左衛門尉を入れ置きます。元亀2年(1571)、織田信長による浅井氏攻めで佐和山城
が開城すると、宗左衛門尉も太尾山城を退き、以後廃城になりました。

太尾山城跡は標高254mの山頂にあります。北城と南城から構成される「別城一郭」の構造で、南
近江との境目の城である磯山城跡や菖蒲嶽城跡なども同じ構造です。土壘を巡らした曲輪や、尾根
筋を切断する堀切などが要所に設けられています。





出土遺物



北近江を望む



堀切

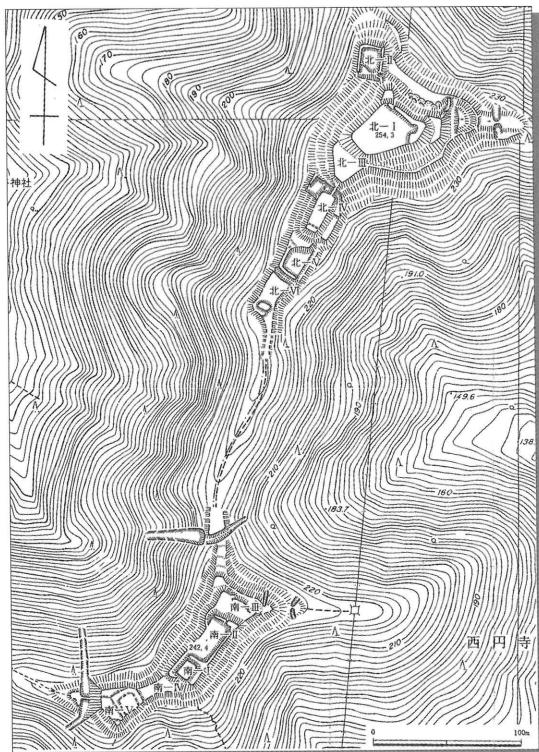
発掘調査の成果

発掘調査では、櫓や御殿の居住施設、倉庫的施設と考えられる礎石建物が見つかりました。鉄釘の出土は、床を持つ居住性に富む建物の存在を示しています。また、儀礼に用いられたあとに投棄された土師皿や灯明皿などから、小谷城や鎌刃城同様に山上に生活空間があったことが明らかになりました。

太尾山城の建物について、『大原觀音寺文書』のなかに「太尾門矢藏之用、上野より材木三本召寄候」という、中嶋宗左衛門尉直頼が觀音寺に宛てた文書があり、伊吹山麓の上野から材木を取り寄せて門や櫓を建てていることがうかがえます。

境目の城

戦国時代の近江は、江北の京極・浅井氏と江南の六角氏が対立し、互いに侵攻を繰り返しました。このなかで坂田郡南部地域(米原市南部・彦根市北部)はその最前線となり、国境を守る「境目の城」が多く築かれました。ここは、琵琶湖岸まで山地が迫り、東山道や北国街道、朝妻湊の舟運など南北を結ぶ交通路が集約される場所でもありました。太尾山城をはじめ鎌刃城や佐和山城、菖蒲嶽城、磯山城、地頭山城などがあり、それぞれの城主はめまぐるしく入れ替わりました。また、常に緊張状態にあることから、当時の最先端の技術が投入されたことが発掘調査から明らかになっています。



太尾山城跡

■ 所在地 滋賀県米原市米原・西円寺

■ アクセス JR東海道線米原駅下車。徒歩約45分。

米原市教育委員会

滋賀県米原市顔戸281-1 近江はにわ館内
TEL.0749-52-8025 FAX.0749-52-8177

平成22年度 埋蔵文化財活用事業

